

第8回 市民活動促進協議会(第8期) 会議録

1 開催日時 令和5年1月19日(木) 13時30分～15時30分

2 開催場所 静岡市特別支援教育センター 1階 大会議室

3 出席者 <出席委員> 山岡会長、山本副会長、池田委員、大畑委員、片井委員、
川村(栄司)委員、川村(美智)委員、北川委員
木下委員、田中委員、殿岡委員、深野委員(ワークショップ報告のみ)
<事務局> 伊藤市民自治推進課長、田中係長、出雲副主幹

4 傍聴者 0人

5 議 事

(山岡会長)

それでは、議事に入ります。次第に沿いまして、第4次静岡市市民活動促進計画案について事務局からお願いします。

(事務局)

第4次静岡市市民活動促進基本計画案について、まずワークショップとパブリックコメントを11月から12月にかけて実施しましたので、その報告をします。そこで一旦確認や質疑の時間をとった後に計画の中身について説明いたします。

なおワークショップは深野委員にファシリテーターをお務めいただきました。当日の雰囲気は、深野委員からも後ほどコメントをいただきます。

まず資料2をご覧ください。静岡市民活動促進基本計画案に関するワークショップを「市民活動」って何だっけ」というテーマで実施しました。目的は、資料に記載のとおりですが、市民活動について、市民の興味や関心を深めることと、もうひとつ、計画について市民の皆さんの意見を聞いて反映させたいというところがございました。

日時は、12月10日と12月18日、番町市民活動センターと清水市民活動センターで開催しました。参加人数はそれぞれ12名にご参加をいただいています。テーマは資料に記載の3つのテーマで、私から計画案の概要を説明した上で、それを聞いて、どう感じたか、市民活動にどんなイメージをもっているか、その活動をさらに活発化させるためには何が必要かという形でグループワークをしていただきました。意見の概要は資料の次のページに記載してあります。

続いてパブリックコメントについてです。パブリックコメントについては資料3-1をご覧ください。パブリックコメントは11月25日から1ヶ月間実施をいたしました。周知方法としては、各区役所をはじめとする公共施設の窓口や広報しずおか、市政出前講座、市民ワークショップ等です。広報して待っているだけでは意見は集まらないため、出前講座やワークショップを行い、特に出前講座では、大学2校で、授業の中のお時間をいただく機会があり、計画案の説明に加え、その場で意見を集めることができました。特に大学で集めた意見が非常に多く、意見全体で107名の方からいただきましたけれども、7割近くが20代で、属性で言うと82%が学生、こちらは授業に来ていた学生ばかりではなく、市役所にインターンの申し込みをしてくれた学生に周知したりして、多くの若い方々からのご意見をいただきました。意見の一覧は資料3-2にあります。資料3-1で、計画に対する主な意見ということで、抽出、分類したものを紹介いたします。

全体に関する意見としては、具体的な活動例があると連想しやすいのではないかと、イラストについて計画にあるキーワードに沿ったものを掲載したらどうか、あるいは計画そのものをいろいろな人に知ってもらいたいといった意見をいただきました。

資料の裏面にも、いくつかご意見いただく中で似た趣旨の意見について分類をしています。例えば、一番上の学校との連携ということで、小学校とか中学校のカリキュラムの中に、市民活動について学び体験する場を用意すべきだとか、小中に限らず高校や大学でも実際にやってみるとかそういう体験してみる機会が必要ではないかということが意見の要旨として見てとれます。次に交流の場ということで、意見交換を、知らない人、同年代、海外の方、あるいは子どもからお年寄り、と多世代で交流する場を設けるといったご意見です。

その下は市民活動を身近に感じる機会ということで、市の「こ・こ・に」という人材養成の講座を受けたことで視野が広がって仲間や相談できる場所が増えたといった意見や、地域や住民に慣れ親しむための施策が必要なのではないかといったご意見。その下は、市民への情報の広がりへの支援ということで、SNSとここからネットということで分類していますが、様々な機会を周知するため、チラシやSNSなどで広報してほしいとか、動画とか写真等によって若者に届いていくという

ようなご意見だとか、ここからネットについては、情報の更新があまりないのではないかと、市の説明を聞いて初めて知ったといったご意見をいただいたところです。

その下が情報の届け先に応じた内容や手法の選択ということで、計画の中では、「体験し、交流し、楽しむことができる場」というような記載ありますけれども、何について楽しむ場なのか、目的とか対象、ターゲットに合わせた情報提供の仕方だとか、大学生や高校生、それ以下の若い世代にもわかりやすいパンフレットを作って、大人のいない話し合いの場を設けたらどうかとか、そういったご意見をいただいています。

次のページです。こちらで施策の柱2の部分でうたっている多様性というところで、外国人だとか障がい者等、社会のなかで声が届きにくい人たちの参加の機会をどう工夫していくのかといったご意見。また、市民参画という区分にさせていただきましたが、パブリックコメント自体が知られていないとか、フィードバックが欲しいとか、あるいは子ども簡単に意見が言える環境、学生が意見を述べる場、こういったものがあればいいといったご意見をいただきました。

また、活動への支援ということで、仲間づくりへのサポートとしてインターネット上でポータルサイト設立すること、それによって自分の行いたい活動の発信や受信を行える場、こういったことをやったらどうか、人材とか資金、道具施設、その下も、人・モノ・金の三要素が必要なので、資金の助成計画に盛り込んでほしいといったようなご意見をいただきました。

その下は言葉の表現の問題ですけれども、取組の方向性のところで施策の柱3では、「市民活動を支える機運を高める」と記載していますけれども、機運というと成り行きに任せているようなので、意識を高めるといった意味合いの言葉にしたらどうかといったご意見です。

その下は市民活動団体の基盤強化ということで、いわゆる中間支援、市民活動センター等も含めて、なかなかそれだけを職業として生活していくのが難しい部分があるということで、そうした部分の生活保障だとか待遇の改善についてのご意見をいただきました。

最後は、交流の場として、団体同士とか、団体と企業とか、そういったものをこちらに分ていますが、活動している団体の紹介とか、活動の体験ができる場を企業とか商業施設と協力しながら作ってほしいとか、その場でコーディネーターがいて相談できると心強い、あるいは市民活動の中でも分野ごと、関連した施設とか場所で交流会を開催できるといいとか、市民活動団体と学生サークルの交流会、そういったものを大学とかと一緒に、大学の施設を借りて開催できると、学生サークルとの協働も始まって、もしかしたらそれが市民活動団体の後継者に繋がっていくかもしれないといったようなご意見をいただきました。

全体の意見は一覧をご覧いただきたいのですが、今ご説明したようなご意見は、計画へ反映していけると考えています。パブリックコメントについては以上のように実施したところです。

(山岡会長)

ありがとうございます。続いて、ワークショップは、深野委員がファシリテーターを務めていただいていますので、ワークショップの様子についてご報告をお願いいたします。

(深野委員)

田中さん(事務局)からもお話がありましたけれども、昨年の12月に、ワークショップを2回行いましたので、ご報告というか感想も含めて伝えていきたいと思います。

お手元の資料を見ながらお願いします。12月に番町市民活動センターと清水市民活動センターの2ヶ所で行いました。実に3年ぶりというか、なかなかこういう対面でのワークショップができていく状況でしたが、今回は両方とも対面でできたので、それが一番良かったと思っています。

今回このワークショップを行うにあたって、来た方たちにどう感じて、考えていただいて、帰ってもらえたらいいかなということを、事務局とも話しまして、市民活動という言葉のイメージからくるところを確認しながら、市民活動に興味関心を持っていただいて、結果としてもうちょっと頑張ってみようかなとか、こういうことだったら自分たちもできるかなという、活動に対するモチベーションを上げるとか、一步踏み出せる、そういったことの手助けができればいいかなというのが、まず一つありました。もう一つは、こういうワークショップをやると市民活動を主にやっている人しか来ないということが多いですが、そうではなく、市民活動まだ初めてだという方が来た場合でも、「ちょっとやってみようかな」と感じるができるいいと思っています。最後には、パブコメですね、こういう取り組みがあるという周知とともに、「私も書いてみようかな」と、そういう気持ちになってもらうということをワークショップの目的ということで定めて行いました。

各会場12名ということでしたが、各会場で来られた人の属性がかなり違っておりました。番町では、普段、市民活動にあまり関わっていない方の割合が多かったです。高校生が3人ほど来てくれました。そういう点では普段あまり接触がない方たちもお話できてよかったなと思います。一方、清水活動センターの方は、既に市民活動に取り組まれている方がほとんどで、日頃の活動の中で感じている、もうちょっと深い話をお互いにできたのかなと思います。流れとしては、田中さんから第4次静岡市市民活動促進基本計画を作っていくという説明をしてもらい、市民活動を市

としてこう考えて、促進のための施策を打っているということをご理解いただきました。そんな計画のことを始めて知ったというようなお話も後でできてよかったと思います。

まず計画を聞いた感想をそれぞれに書き出してみ、お互いに話をするというワークをやりました。それが終わった後、市民活動って皆さんどんなイメージで捉えられていますかというような問いをしまして、それぞれの方が書き出し、意見交換をするという流れでやりました。

参加者が市民活動に日頃取り組んでいらっしゃる方、あるいは初めての方、そういう立場の違いがあったものですから、多様な意見が出たと思います。中でも番町の方は、初めてとか、まだあまりやったことないとおっしゃる方が多かったので、そういう方には、やられている方から「実はこういうことをやっているよ」みたいな話をし、楽しいこととか大変なこととか、そういったことも含めて話ができただけかなと思います。

清水の方では、やっていく中での大変さもありますけれども、やっているからこそわかる、人と人との交流の楽しさですとか、動きだしてからわかる、人との出会いがあるという、そんな話もできたので良かったと思います。

それを受けて、市民活動を更に活発にするためにはどういったことがあるといいのかなという問いをしまして、それぞれ考えていただいて、付箋に書き、それをまた協議するという流れでやっていました。かなりいろんな意見が出て、活発に意見交換ができたと思います。時間が短かったわけではないですが、「はい終わりです」と言ってもなかなか話が止まらないという感じも見受けられて、そういう意味ではオンラインではなくて、こういう対面で話をするというのは、熱が生まれていいものだと思つて改めたところです。

市民活動についての広報周知みたいなどころへの言及は毎回あるのですが、どのような媒体だったら、例えば若い人にも伝わるのだろうかとか、あと、交流連携という意味では、生涯学習施設などとの横連携もあつたらいいという話も出ていました。

最終的に参加者にアンケートを取って集計したのですが、幸いなことに、ワークショップについては満足というお答えがほとんどだったのでよかったと思います。どういう点で満足したかを更に聞いたところ、まずパブリックコメントや計画について知れたことですか、あるいは市民活動について改めて皆とお話ができただけということについての満足感が高かったと思います。今回ワークショップをする際に流れですとか目的を明示したので、そういったところのわかりやすさもよかったと言つていただいています。

ここに記載されている回答の他に、アンケートの原本のコメントもいろいろ見させてもらったのですが、その中に自分がやっている小さな活動も市民活動だと再認識ができてよかったと思

ったというのが、市民活動という言葉自体がやっぱり硬いものですから、ちょっと偉そうな、大層なことをしていないとそう言えないのかなと思っていたけれども、実はそうではなくて、小さな活動も、市民の活動ということで捉えて良いのだな、身近に感じられたというような意見がありました。あるいは高校生から、市民活動はまだ参加したことはないのだけれども、時間を見つけて参加してみたいという意見もあって、多様な見方、あるいは感想が出ていて良かったかなと思っています。自分には何ができるか考えてみようと思ったっていうようなコメントもありましたので、当初言っていた、市民活動へのモチベーションを上げるという意味での目的については、コメントを見る限りは達していたのかなと思いました。一方、全体的にふわっとしていたよという感想もあり、話題が大きいものですから、個別具体的に詰めていくというところまでいけなくて、総論に終わってしまったというコメントもありましたので、今回1回だけのワークショップだったのですが、続けていく場が恒常的にあるといいとも思いました。

全体的に見ると、番町市民活動センターでのアンケートの方がコメント数ですとか書き込みが多かったかなと思いました。参加者が初めての方とか、こういうこともあるという驚きもあって書き込みが多かったのかなというふうに個人的には思ったところです。

その後にパブコメも書いていただく時間も取れましたので、そこで質問を受けながら書き込んでくださったりしました。一つ思ったのですが、いろんなパブコメがあるのですが、これやっています、広報してますだけではなくて、このようにパブコメに関する話し合いとか、意見交換会といったものをやることで、その関心も高まるだろうし、より深く理解した上でパブリックコメントを集めることができるのではないかなと感じたところです。

(山岡会長)

ありがとうございました。今の報告、事務局からの報告も合わせてご意見をいただきたいと思えます。深野委員につきましてはお時間の都合で退席されると聞いています。どうもありがとうございました。それでは質問等の時間をとります。ただいまのパブリックコメントとワークショップについて意見や質問などありますでしょうか。

(川村栄司委員)

深野さんの報告の中にもパブコメを材料にして、こういった集まる会をやると、それ自体が良いのではないかというお話があって、事前にいただいたパブコメで大学の講義で、二つの学校で行ったということで、結果大学生とか若い人の意見のシェアが大きいものになっているのですが、それ

自体は悪いことだと思っていなくて、むしろこういう機会に、大学の方に提案をされ、結果若い人が意見を寄せてくれたと。これは市の尽力かと思います。パブコメの中身を見ても、若い人は若い人の考え方で記入されていて、勿論それが全部受け入れられるとは限らないですが、これからを担う世代の、社会に出る前の、我々のように社会に出ていろんなことを経験してしまうとかえって気が付かないことに指摘があることはとても良いことだと思います。

(山岡会長)

こういうところに声を上げる機会を積極的に作っていくことが大事ですね。

(事務局)

大学の授業でお話させていただいたのですけれども、1回の講義の中で、パブリックコメントとは、ですとか、計画の細かいところまで説明することは難しかったので、工夫の仕方はまだあったのかなという反省はありますが、周知にもなったという点はよかったと思っています。また、市では、こういった基本計画を策定するときは、市民参画手続をとることが条例で義務となっています。基本的にはパブリックコメントと、必要に応じて複数の方法でやることになっており、各所管でいろんな機会を作っているのですけれども、どこまでやったらいいかは難しいところでもあります。今回は計画案がほぼできた中で、ワークショップを行ったのですけれども、内容によってはもっと初期の段階からワークショップをやって、そこで出た意見を積み上げてって、計画案になった時点で市民皆さんの意見をパブリックコメントで聞くような順序というやり方もあります。市民自治推進課はそうした市民参画手続を積極的にやることを進めていく立場にあるので、計画の中でも、その辺はしっかりやっていきたいなというふうに思っています。

(山岡会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。

(大畑委員)

意見の提出人数は気になるところで、学生さんが参加してくれているのは非常にいいことで期待します。一方で市民全体をもう少しすくう方法を考えて、市としてもっと広報とか周知の仕方を研究してもらいたいです。よろしくお願いします。

(山岡会長)

ありがとうございました。なかなか難しいところであり、まさにこの市民活動にも関わってくること、市民性ということですね。声を上げる、その土壌がない中で、アピールしてもなかなか集まらない。働きかけが必要ということだと思います。

(田中委員)

今うちの団体で法務省のパブコメ集めを必死にやっていますが、パブコメの書き方講座からやっています。対面だけではなく、オンラインもやっているの、上級編、中級編、初級編のように、書ける人、そこそこ書ける人、すごく書ける人みたいに分けてやっています。いろいろなツールを使ったり、グーグルフォームを作ったりして、書けない人は団体ごとに集約して提出するというのをやっているの、いろんなやり方で集めることができそうだと思います。

(山岡会長)

そういう工夫もすればまた違う声も集まるかもしれないですね。

(山本副会長)

パブコメの107件というのは、決して少なくないというか、学生さんたちにお声がけいただいて、その成果はあるというのが一つ。ただ中を見ると計画に対するコメントが少なく、市民活動に対して、初めて知った人の率直な意見が非常に多くて、このパブコメは計画案をブラッシュアップするためという目的があるので、さっき言ってくださったような初級、中級、上級くらいあって、学生さんが一回講座を受けたぐらいで、パブコメが何か、市民活動が何かすらわからないのに、パブコメがどういう役割を持っているのか分からない。ネガティブなことを言いたいわけではなくて、参加することに意義があるとは絶対に言い切りたいのですけれども、市民社会が成熟していくという意味で、これで良いのだろうかと思いました。

そこでもう一つ次の段階の疑問なのですが、これは議論を分けた方がいいと思うのですが、「市がパブコメの書き方を伝える」というのは市民の敗北だと思います。団体が、当事者がやるのが普通です。ここはせめて市民活動センターと市で分けるとかだと思います。あまり「市がやる」というのは自家中毒みたいですよ。自分で出しといて自分で答えさせるというのは、今ちょっとだけ検索したんですけど、やっぱり自治体がやるパブリックコメント講座というのは、単純な検索ですけど引っかけはこないの、そこは市民側への問いなのではないかというのは、ちゃんと分けて

言わなければいけないと思いました。あとワークショップですけれども、深野さんに本当は聞きたかったのですが、市民の声というのが大事だと深野さんがおっしゃって、このワークショップにつながってきていると思うのですが、これと今までやってきたワークショップが、設計思想的に何が違うのかとか、市民の声を集めるということ、これは今回だけではなくこれから、ワークショップでどうしても少ない人数から聞く事しかできないので、今後、深野さんが強くおっしゃった市民の声を集めていくというのと、ワークショップという手法と、考えなきゃいけないのではないのかなと思います。でもアンケートですくいきれないというのも分かるし、ワークショップを年間10回ぐらい市の予算でできるかという、それもできないでしょうし。市民の声の集め方というのはこれからこれも市民側への問いとして考えなければいけないのではないかというのは、ほぼ感想でしたが、整理はきちんとしながら、議論をしなければいけないと思いました。以上です。

(山岡会長)

ワークショップの場合はどうしても限りがありますよね。深野委員は、番町と清水で随分参加者の性質が違っておっしゃっていたのですけれど、それは呼びかけ方が違ったのか、例えば番町の方は、あまり市民活動に参加したことのない方が来られていて、それはすごく貴重だなと思いました。何か違いがあったのか、あるいはその属性が違った要因はあるのでしょうか。

(事務局)

要因は、想像の部分もあるのですが、募集に当たり、市民活動センターの協力もいただきながら、呼びかけを行いました。そういう中で、清水についてはセンターの利用団体だとか、あるいはセンターのスタッフがプライベートで参加してくださったとか、活動されている方が参加したものと思っています。

番町が、市民活動はこれからという方が参加した理由としては、高校生3人については、担当職員が、母校に行って呼びかけたりしたため、呼びかけ方の形で入ってきたものです。あと私の主観、印象もありますが、清水のセンターは、啓発的なイベントもたくさんやってくださっているのですけれども、どちらかという実務的な講座だとか、催しとか相談を受けたりするケースが多いのかなと思って、逆に番町の方はですね、より、これから市民活動を始める方とか、興味関心を持ってもらうような性質のイベントが多いというふうな印象を持ってしまっていて、そういったことも影響しているのではないかと考えています。

(山岡会長)

元々の背景もあるけれども、多少の工夫もあるということですね。他にはいかがでしょうか。パブコメに関しては、その中身をどう受け取るかという計画の話もないとしくいところがあると思いますので、よろしければこの議題についてはここまでとし、続いて計画案について事務局から説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

引き続き説明いたします。まずは資料 1 の計画冊子の説明をいたします。前回の協議会で示した計画案に対して、協議会での意見、あるいは今回のパブリックコメントとかワークショップで出た意見を反映いたしました。

検討中となっていた成果指標も設定しましたので、修正、追記した点を説明いたします。5 ページをご覧くださいませでしょうか。赤字のところですが、社会情勢ということで、台風 15 号の関係を記載しました。被害がもたらされたこともそうですし、それに対して自治会や町内会、地縁団体あるいは災害ボランティアの皆さん、いろんな市民団体の皆さんが発災直後から被災者支援に取り組まれてきたということを書かせていただきました。

その下に色つきで記載したのが、台風 15 号の関係はもう少し詳しく書きたいと思ひまして、ただい計画本文に入れると全体的の構成の中でボリュームが大きくなりすぎてしまうので、コラム的な感じで被害状況や災害ボランティアの活動について紹介いたしました。

隣の 6 ページですが、静岡市の世帯構成の推移のグラフが、前回までだと 2015 年でしたので、最新の国勢調査の数字が出ていますので 2020 年の数字に修正しました。

続いて 8 ページ中段です。現状認識の最後の部分になるのですが、前回の協議会で議論されました、社会の変化は前提として取り組んでいく必要があるということで、変化に対応できる計画にしていくということを記載しました。

続いて 14 ページをご覧ください。第 4 次計画の施策の柱ごとの方向性について記述した部分です。まず施策の柱 1 の取組の方向性(1)の市民への情報の広がり支援ということで、緑の部分、「届けたい相手に応じた内容や手法によって」は追加した部分です。パブリックコメントにおいても、単に「市民活動」というくりではなく、分野ごととか、対象に応じて。といったご意見いただきましたので、ここで反映しております。

(2)市民活動を身近に感じる機会の創出、ここの赤字の部分は前回の協議会でご指摘がありましたが、答申でいただいていた部分を、前回までの計画案では、少し言葉の中を含めるというか、少し丸めてしまった部分がありましたので、それらについてはきちんと文章として残し、例えば、シチズンシップを育むための学びの場といったことについては記載いたしました。

同じくその下の緑のところは、学校との連携ということで、具体的な方法や事業は今後検討していかなくてはならないのですけれども、方向性としては、学校との連携を図るとか子どもとか若者へのアプローチを積極的に進めていくということを追記しています。

15 ページをご覧ください。「触れる・楽しむ」の成果指標についてです。非常に迷ったところですが、「触れる・楽しむ」なので市民活動に参加してもらうための情報に関する方が良いと思っています。市民意識調査では、市民活動に参加していますか、していませんかという設問の中で、参加していないと回答した方に対して、どういう理由で参加しないのかというようなことを、伺う質問があるのですが、時間がないとか、情報が得られない、参加したい活動がない、興味関心がないといったことが上位に挙げられます。「触れる・楽しむ」の取組の方向性に沿った施策を進めることで、市民が情報に触れる機会を増やしていくものであると考え、先ほどの活動に参加していない理由の中で、興味関心がないとか、参加したいと思う活動がないという人に興味を持たせることは難しい部分もありますが、情報が得られないために参加できないということについては、せめて、情報が得られるよう市の施策を進めていく必要があるのではないかということで、情報が得られないために活動に参加できないという方の割合を減らしていくことを目標としてはどうかというふうに考えています。

それに対する、想定される事業としては記載の事業を挙げています、前回までの計画だと事業ごとに、成果指標や取組状況を書いていたのですが、計画の進行管理のところの説明ですが柱ごとに一つの成果指標として、数字だけでは把握できない部分は、ワークショップとか市民活動団体へのヒアリング等で補完していくというような形を考えています。

次に 16 ページです。こちらも取組の方向性の(1)の多様な主体が日常的に市民活動に参加できる環境づくりについて、赤字の部分は、前回言葉として少しまとめてしまった部分について、答申の内容をしっかりとここで書かせていただいたものです。

同じ段落に、(1)の中に市民参画の推進ということで、パブコメは意見聴取だけでなくフィードバックを行うとか、周知を図っていくということを入れました。

(2)の市民活動立上げを支える仕組みづくりについては、こちら緑のところ、支援の方法というか内容についての追記をさせていただきました。ワークショップの中でも活動に対する助言ですとか、他の団体とのコーディネートをしてもらえるといいというようなご意見を反映しています。次は17ページです。こちらの柱の「動きだす」の指標としては市民活動に参加したことがある市民の割合ということで、市の市民意識調査の数を掲載しています。現状ですね、78.8%というふうになっていますので、それを12年までには約10%、増やすというような形で考えています。市民活動が日常の一部となっているという状態を目指すことが今回の計画の一つのキーワードですので、過去からの推移もあわせて比較可能なもの市民意識調査の設問を指標としてはどうかと考えています。

想定される事業としてはご覧の通りになっています。また、ここでもコラム的な形で書いていますが、市民活動が身近なところからあるということを紹介していきたいと考え、防災、自主防災の活動だとか、学校の中での活動、学校と地域との関わりの活動だとか、あるいは身近なイベントの実行委員、ボランティアとか、そういったことも市民活動ですと記載しました。

次は18ページになりますが、こちらも取組の方向性それぞれ(1)、(2)で赤字のところは、答申に記載してあるような内容を、丸めずにこちらでしっかり書かせていただいた形になっています。

(1)の1行目で、後半で「市民活動の具体的事例等の…」を追記したのは、ワークショップで具体的なアクションとか事例がわかるといいというお話があったため、そのように記載しました。

次の19ページ。こちらが施策の柱3の「創る・実現する」の指標としては、こちら市民活動センターにおける新規登録団体数を設定いたしました。様々な市民活動が作られている状態を把握していくことが本来の指標かと思いますが、市内における全ての活動の立ち上げや活動内容を把握していくのは難しいという中で、市の施策における、市民活動の立ち上げや活動に関する情報の交流拠点としては市民活動センターがその役割を担っていますので市の施策としての直接的な効果と、市民活動センターだけが市民活動をする場所ではないですけれども、市の全体の傾向を把握するための一つの指標にはなり得ると考え設定しました。

前回の会議でもご意見いただいたような、他の施設、様々な公共施設がありますが、施設ごとですね利用属性の区分は統一できてない部分がございますので、今回の指標としては、市民活動センターにおける新規登録団体数ということで、どうかと考えています。

20ページの「つながる・変わる」についてです。こちらも取組の方向性(1)の赤字の部分は、答申の内容を反省した形になっています。(2)についても、こちらはパブリックコメントとか、ワークショップでも交流の場に関するご意見いただきました。元々は「世代間を繋げていく取り組みを進め

ていきます」で終わっていましたが、直接的な後継者育成だけでなく、団体同士の新たな連携とか、交流を生み出すことをコーディネートする施策を通じて、後継になるような方と知り合うということもあるのかなと思いましたので、パブリックコメントの意見を反映する形で、追記しました。次は 21 ページです。こちら「つながる・変わる」の指標としては、市と市民活動団体との協働事業数、これは第 3 次計画のものを引き続き成果指標としていますが、今回の計画でいうところの「つながる・変わる」は、行政と市民活動団体というだけでなく、市民活動団体同士とか、あるいは企業とか、様々な主体との関係性を含みますが、多様な主体との相互理解とか協働を促すために、まずは市から、市民活動団体をはじめとする様々な主体との協働を進めていくことが重要であると考えましたので、その状況を表すものの一つとしてこの指標を設定させていただきました。この下、まだ作成途中ですけれども、コラムという形で様々な市民活動と協働の形ということで、いわゆる NPO 法人以外で活動しているような団体さんの事例なんかを紹介できたらなというふうに思っています。

最後に計画の進行管理というところ、22 ページです。一番下の 3 の計画の進行管理というところ。今回指標の設定については、施策の柱ごとに数値目標という形で決めました。それでもって市の取組を客観的に測る数字での指標となりますが、前回までの計画案にもあったように、数値のみで評価することは難しいということも記載し、社会情勢の変化に踏まえた質的な変化に着目することも重要ですということで、続いて 23 ページですけれども「施策の柱ごとに目指すべき成果指標とその数値目標を設定するとともに、その数値の達成状況のみをもって計画全体の進行管理を行うということではなく、市民の意識だとか行動等の質的な変化については市民活動団体ヒアリングや市民同士による対話や交流の場づくりを通じて把握していきます」と、評価の仕方について記載いたしました。

続いて、第 4 次計画では中間の年が令和 8 年度になりますから、4 年後、計画の中間見直しというものを行って、そこで改めて施策だとか成果指標について確認を行うとか、事業のスクラップアンドビルドとか、制度の見直しなど中間だけで行うわけではありませんが、社会の変化に応じた事業の見直しは常に必要になりますので、それらを見込んだ計画になっていること記載しています。計画の内容については以上です。最後に、資料編 25 ページの用語集ですが、前回の協議会でプロボノの説明に関してご意見いただきましたので、修正したことと、シチズンシップという言葉についても用語の説明を追加いたしました。

資料 1 の説明は以上です。今日配付させていただいた資料 4 は、成果指標の立て方とか、数字の設定の仕方について補足をしたものになります。

この計画について、本日皆さんからご意見いただき、2月の中旬に、市の内部での会議で検討を行い、2月の中旬頃には最終的な市としての意思決定というか、策定をする形で進めているところです。長くなりましたが説明としては以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。ただいまの説明についてご意見やご質問はいかがでしょうか。

(北川委員)

説明ありがとうございました。計画を拝見して、特にこのコラムで具体的に記載されたのは非常にわかりやすくなったと認識しました。特に17ページのコラムでは市民活動について具体的に、市民活動とは、ということの理解、すごく進みやすいなという意味で非常に良かったなと感じました。それから、私自身の反省として今まで協議会の方に参加をするのをお休みしたり参加したりということで、きちんと発言できなかった部分として反省しているのが、もう少し企業として、どのように関わっていくかというところを発言したかったなというところは思っていたので、今回も例えば16ページあたりに企業等による社会貢献が促されるといったこと、企業の関わりを書いていたのは非常に良かったなというふうに思いました。そういう意味で、例えばページ20、21ページあたりの施策の柱4「つながる・変わる」の中で、事務局から、市と市民活動団体との協働事業数の他に、この関わりの中には、団体や企業と団体、こういった協働の関係もあるというご説明もありましたので、このコラムはまだ作成中ということでしたが、可能であれば、企業との関わりを具体的に書いていただくと、企業としてできるところが、具体的につかみやすいと思ったので、例えば企業が団体に直接活動を支援するような取り組みの他に、例えば、ボランティア休暇等で社員が団体活動に参加しやすいような環境づくりであったり、あるいはその企業そのものが活動団体に社員が参加することに対してですね、評価をするような人事制度であったり、仕組み。こういったものを取り入れていく活動を支援するような環境づくり企業がもっと進めていくことも、このコラムの中にイメージできることを記載していただけると、もっと理解が進むのではないかなと思いました。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。

(事務局)

ありがとうございます。指標を設定する中で、企業との連携と書いてあるのですが、具体的にどのようなものがあるか、イメージがつくように、コラムで紹介していきたいと思っています。特に本年度は、静岡県のNPO活動支援センターで、企業と市民活動団体をマッチングするような取組をされていたので、そういったところに事例をお伺いしながら紹介していきたいと思っています。

(山岡会長)

いかがでしょうか？前回からの修正とパブコメの反映。それから成果指標の確認です。

(木下委員)

パブコメからの流れと、計画の指標・事業のところ、この二つにコメントします。パブコメになった段階で公に広く意見を集めることにも限界があると思っています。みんながアクセスできることも大事ですが、意図的に発信しづらい方たちのところに聞きに行く、耳を傾けることも必要と思っています。それに関連して計画の16ページの施策の柱2、多様な主体が日常的に参加できる環境づくりというところに「年代や性別、国籍、障がいの有無に関わらず」といった時に、障がいのある方たちのところにあえて聞きに行く。「障がいのある人たちにも門戸は閉じていませんよ」ではなくて、一定の制約がある人たちのところにはきちんと耳を傾けに行くということも必要だと思っています。ここに方向性として書かれているのであれば、想定される事業のところでも、市民活動センターに来られる人だけではなく、この市民討議会についても、実際に来られる人に限られる可能性があるのであれば、こういったところに行きづらい方たちに向けてどういう施策をしていくのかといった配慮が含まれると良いと思いました。もう1点が、施策の柱に対しての指標と事業に整合性についてあまりピンときてない印象を受けています。一番は施策の柱3の成果指標が市民活動センターの新規登録団体数であることについて、成果指標を生み出すために行われる事業がこの二つなのかなというところ。柱で掲げたことと、それを測る指標と、指標を達成するためにやる事業か、どうもちぐはぐな印象を受けていて、自分自身、指定管理をやっている身からすると、ここまで具体的な目標と数字が出ることは結構なこととして、市民活動センターが新規登録団体を増やすことを目的に活動することになってしまわないか、ということはありません。代案が出てきてないのは恐縮ですが、そういう意味では前々からちょっと懸念していたところではあるのですが、いろいろ柱としてこういう方向がいいだろうという点はまとめてきたのですが、実際

にそれを推進していく、市民自治推進課としてできることが測れるものが、なかなか難しいという印象は受けています。

(事務局)

パブコメについては、意見を出せる人、ワークショップも含めてその場に来られる人に限定されますので、そういった意味ではしっかり個別に聞きに行くことはこれまでもできていませんでしたので、それは今からでも、協会とか、そういう部分になってしまうかもしれないのですけれども、お話を聞く機会をつくりたいと思っています。指標についてはおっしゃる通りで、適切な指標の設定が難しいことは実情としてありまして、そういう中で、「創る・実現する」という点で、活動が自由に作られていくこと、活動する団体が増えることをどう測るべきかという、市としては施策として市民活動センターがあるので、そこでの登録数が増えていけば、活動自体が増えていると言えるのではないかと考え設定しています。

ただ、施策の柱3、例えば毎年20団体達成したから施策の柱3は達成できました、ではなく、それを補完するものとして、市民活動団体へのヒアリングだとか、ワークショップを通じて市民の皆さんに意見を聞く機会を作ったうえで、その結果を例えば協議会の場でも出させていただいて、ご評価いただくとか、そんな形で進めていきたいと思っています。

(山岡会長)

定量的な指標についてはこの協議会でも何度も出てきていることで、どんな指標でも的確に測れることにはならないような気がします。木下委員がご指摘いただいたなかで私が懸念するのは、センターがこの数を上げるために頑張ってしまうこと、それはおかしなことだと思うので、あくまでも結果、ここに書いてあるその柱に基づいて事業を行った結果として数字が上がっていくこと、そういうことをセンターとも共有してやっていく必要があります。もちろんもっとふさわしい指標も他にもあるという気もするので、そこはぜひご意見いただきたいなと思いますけれども、なかなか難しいところではあります。他いかがでしょう。

(川村栄司委員)

木下さんの問題提起と会長のコメントを聞いていて思ったのが、18ページの柱の3です。これを測る指標、新規登録数だけでいいのかという。しかし何をとってもなかなか上手いものがないという話で、苦し紛れの的なことにはなりますが、他のところでも指標として使われていないのであれ

ば、ここからネットのアクセス数。伸び悩んでいるといった3次計画の総括があったとは思いますが、アクセス数を持ってくることで、それを増やすためにどうすべきかを考えなくてはいけない。それが想定される事業の中に反映されてくる。つまり市のプラットフォームとして持っているここからネットを、パブコメにもあったと思いますが、大学生が知らなかったとか、これは大学生だけでなく、我々というか市民の皆さんも結構知らない人は多いと思いますが、では知ってもらうために何をするのか、あるいは既存のものでもいいのですが、持ってくると。そうすると、成果指標が今1個しかないわけですが、成果指標が複数になるということ。それを達成するためやり方、これも事業に反映させれば、もう少しこの柱の3を充実させることができるのではないかと考えました。

(事務局)

ありがとうございます。指標が一つしか書いてないので、先ほどの話にもなりますけれども、それでもって柱全体を評価するよう見られてしまう部分もあるかと思います。ここからネットのアクセス数についても、モニタリングというか、達成目標というより、数字は毎月、毎年測っていくものではあるので、見ていくべき数字はしっかり管理する中で、実際に振り返るときに数字の変わり方はお示しできるようにしていくことができると考えています。

(川村美智委員)

前の前ぐらいの会議の時に、この計画の施策ではあまり細かいことは書かないとおっしゃられていたのですが、重点施策は、ここに出ないかもしれないけれども、どこにお金を投じて、それがどういう効果になったかわかるような指標を設けないと、漠然としたままで終わってしまうかなと思いました。重点施策を、何年までに何をするというようなロードマップがあって、1年目は何をやるとかというところに取り組む事業が出てくるような気がします。想定される事業が曖昧なので計画の構造をもう少し教えていただきたいです。

(事務局)

現状では、重点事業という設定は特にしていません。よく役所の計画ではリーディングプロジェクトを示すことはありますが、3次計画もそうだったのですが、この計画ででは個別の事業について、そこまで触れておらず、どちらかというとな針盤的な、この計画でもって、この事業をいつまでにこれだけやってくということを示すのではなく、市としての市民活動促進の方向性を示した上

で、各事業については毎年個別に実施していきませんが、全体の理念はこの促進基本計画に基づいたものであるという立て付けになっています。ただ「理念はこうだけどあとは自由に皆さんやってください」という形にならないよう、計画という側面からグリップしていくためには市の中で、例えば市民協働をしている事業は各部署に対して毎年照会をかけて確認したり、そういったチェックみたいなのは内部的にはしっかりしていきたいなと思います。

(山岡会長)

その他、いかがでしょうか？

(山本副会長)

皆さんの意見を聴いていて、計画に載せられるものには限界がありつつも、ディテールが気になるというのが正直なところだと思います。載せられるものとその他のものは分けた方が良く、ただ、木下さんのご指摘にありましたが、私もパブコメを読んでいて、今の市場と一緒に、顧客が細分化していて、マスがなくなっているのが実情です。市民もまさにそうで「届かないよ、届かないよ」と皆が言っている、「センターに来てください」、「市の広報を見てください」という時代ではなくなってしまうけど、それを丹念にやっていたらとても身が持たないという実情だけれども、この時代の変化に何か答えを出さなきゃいけない、そういう市民の声をどうやって受け止めるか。パブコメにあたって大学にお話に行ってくださいっていますよね。もう少し回数が増えるといいのではないかと思いますけれども、特に大学、若者たち、中高生とか、子育て支援施設とか、田中委員が直面していらっしゃるお母さんたちの集まりのところに、沢山ではなくても何回か足を運び、何人かの人が聞いてくれて、リアクションがあったら最高ですが、そういう双方向にするという要素がここに入ったら、見え方がだいぶ違うのではないかなと思いました。あまり大きい約束をすることはできないと思いますが、視点を変える。「発信しているから取りに来てください」とか「来てください」ではなくて、私たちも足を運ぶという気持ちでいるという、気持ちだけじゃなく施策に反映することが大事ですが、それが入るだけで見え方が違ってくるのではないかなと思いました。

(事務局)

計画案の施策の柱3についてではなく、全体の計画の指標とか測り方とかに関して、市の方から話を聞きに行くという姿勢が見えるとよいというご意見でしょうか。

(山本副会長)

計画案に関してではなく、普段から市民活動というものを伝えに行く機会をつくるということです。

(事務局)

ありがとうございます。大学の授業は、割とやりやすく、例えば今回は大学側から、静岡市役所が市民活動促進という形でどのような仕事をしているのか、それを教えてくださいというオーダーがあったので、開催日をパブコメの期間中に設定させてもらい、計画を策定中であることや、パブコメについても併せて説明させていただいたものです。こうしたオーダーがあればそれに応じてやることはできますが、こちらからアプローチしていくにあたって、こちらから伺っていくことは非常に大事だという中で、あまり市側の「聞き取り」のようにならないような形をどのように作っていくかは検討事項だと考えています。

(山岡会長)

他いかがでしょうか。

(池田委員)

市民意識調査のことがいくつか書かれていますが、どこかでデータは出ているのでしょうか。柱1では成果指標になってしまうのですが、その理由として上位が「参加している時間がない」等が出ていますが、何に対しての上位なのかがこれだとわからないので、一緒に市民意識調査の結果が添付されれば裏付けも分かりますし、33%とか28%の数字の根拠はわかった方がいいと思いますので、くっつける予定があったら教えてください。

(事務局)

数字を出す際の統計の情報については抜けてしまっていたので、わかるような補足説明を追加します。ありがとうございます。

(山岡会長)

関連して質問ですが、この33%は全体の回答者のうち「市民活動に参加していない」を選択した人を100%としたうえで、その33%が「情報が得られない」ということかと思いますが、そうではなく、全体の回答者を100%としてはどうかと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

全体の回答者を100%として算出することもできますが、小さな数字にはなってしまいます。

(山岡会長)

例えば「市民活動に参加していない」と回答した人の割合が下がった場合に、それによって「情報が得られない」の割合が上がるという可能性もあると思います。平成30年に28.1%となっていますが、3次計画の中間目標と同じぐらいを目指すというのでしょうか。

(事務局)

3次計画の中間時点での数値と比べて現状値は上昇してしまっているのので、いまから4年後の第4次計画の中間地点で、3次計画の中間時点での数字まで下げることが指標とするという設定をしています。

(山岡会長)

他いかがでしょうか？

(片井委員)

柱3の指標ところの資料に戻りますけれども、取り組みの方向性(2)で基盤強化とあります。人材や団体の育成は、民間はあまりやっておらず、市民活動に関する講座、行政がいくつかやっているとありますが、その回数が増えた・減ったというのはいかがでしょうか。また、自分のところも資金調達に四苦八苦していて、やめるかどうかという状態の事業もあるけれども、利用者が多いために続けているものもあるので、資金調達について、どう調べたらいいのかわからないのですが、そのような指標もありかなと思っています。

(事務局)

ありがとうございます。資金調達に関しては、例えば認定 NPO 法人であれば、寄附金の金額は市へ報告いただいているので把握はできます。一方で、パブコメの意見の中にもありましたが、寄付金額を指標にすることで、寄付金が集まる団体が良い団体であるとか、以前の協議会でも議論がありました。第4次計画では市民活動そのものに序列をつけたり区分したりすることを排除していきたいという部分もあります。第3次計画では認定 NPO 法人の寄附金額をモニタリング指標としていましたが、金額を見たときに果たしてそれをどのように評価すべきかというところもあつたので、検討の結果、今回は指標としては外すことにしました。ただ、先ほど申し上げたように市として把握しておくべき数字ではあると思うので、把握はしていき、振り返りのときにしっかり数値を出せるような形にはしていきたいと考えています。

(殿岡委員)

質問です。いろいろなところで各団体の連携とか、学校と連携ということが書いてありますけれども、22ページにある庁内における推進体制というところで、各部局や機関との総合調整を図るといふことで、例えば教育委員会と子ども未来局とで話し合っ、て、こういう事業はもう不要ではないか、例えば自分は青少年健全育成会に関わっていますが、時代的には「不良」というようなものはいないから補助金とかもやめて、他のことに移行できればすごくやりやすい、そういう意見もたまに出るのですけれども、そういった話し合いはこういう会議の場で行われるのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。庁内の会議ですけれども、今おっしゃられたような事業の個別の話はあまり出なくて、どちらかという、この柱の方向性がこれでいいのか、現状認識としてそれらで足りているのか、第3次計画をどのように振り返り、どう4次計画に活かされたのか、といったような議論をしています。ですので、逆に言うと今おっしゃったような健全育成会のことなど個別の事業は、一義的には担当部局が検討していく形になっています。

(殿岡委員)

そういうところから調整していかないと、なかなか変わらず、同じことをずっとやっていると思っ、て停止状態で、教育委員会でも、子ども未来局でも、本当は一体のもののはずですが、お互いに何を

やっているのかわかっていないので、ぜひそういう話し合いを役所の中でもできる人がいたり、外に意見を聞くとか、そんな機会があればいいと思いました。

(山岡会長)

他いかがでしょうか？

(木下委員)

少し戻って寄付の話ですが、18 ページの(2)の資金調達のテクニックとか団体の規模感が大きくなるという観点で言うと、そういった批判があるかもしれないですが、(1)の、寄付やボランティアといった様々な形で関わるチャンネルがある場合に、「寄付によって市民活動を支えた経験がある」という人が増えれば、市民活動が活発になったと言えると思います。

それは団体の規模感が大きいことを是としているのではなく、その団体の発信力によって、市民活動に自分では足を運べないけど、自分のお金の中から寄付を通じて市民活動に参加したというチャンネルが増えることは、指標として、私はそこまで変なことではないと思います。

その発信の仕方が、「寄付をたくさん集めた団体の方がいいよ」と取られない工夫が必要なのかもしれないですが、ファンドレイジングをやっている人間は、団体が安定することももちろん大事ですが、寄付という形で参加してもらえるチャンネルを作っていることに価値を見いだしています。パブコメの意見は私も拝見しましたが、そういう見方もあるかもしれませんが、誤解もあると思います。

(事務局)

ありがとうございます。計画のこととは少しずれてしまうのですが、寄付に関しては、市が「ふるさと応援寄附金等による NPO 等指定寄附事業」をやる中で、市民の皆さんに対して寄付に関する意識調査ができたかと考えています。実現でそうだったら、またこの場で紹介等させていただきます。

(池田委員)

想定される事業が全項目に入っていますが、縛りはありますか。というのも、例えば各地域総務課で魅力づくり事業をやっている、それこそ駿河区は前から自主防災の方たちの育成をやっていますが、こういったものに入ってこないのでしょうか。また、自治会への支援を含めて、例えば成果指

標の柱の3には、デザインカレッジ等も入っていないのではないかなと思うこともあります。教育関係の局でやっていることもあると思うので、そういった広がりを持たせることも良いのではないかと思います。

(事務局)

特に縛りはありませんが、魅力づくり事業は、内容が変わっていく部分もあるものですから、計画への掲載事業とするような調整はしていませんでした。事業を計画へ掲載していくにあたっては、各担当部局における事業の目的や他の計画との整合性、事業としての優先順位もあり、全てを搭載することは難しいですが、庁内横断的にということもありますので各部局と調整していきます。

(山岡会長)

「想定される事業」はあくまでも今ある事業を上げているという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおり、既存の事業が入っています。

(山岡会長)

ここにはないけれども、計画に合わせて新しい事業ができることも可能性もあるということでしょうか。

(事務局)

8年間の中で、毎年企画、予算要求したうえで事業をやっていきますので、その大きな方針というのがこの計画というイメージです。

(山本副会長)

山本です。「想定される事業」に関して、市民自治推進課以外の課の事業が入るのは初めてでしょうか。

(事務局)

一部入っていました。例えば3次計画における「CSRの推進」には経済局が担当しています。

(山本副会長)

少なくとも4年目に中間見直しがあると思うので、見直しの時にどうしても成果指標1本とか大項目を検証すると「無事に終わって良かった」ということになってしまいがちになる。この「想定される事業」も、ざっくりでもこんな事業を4年間でやられたのを追っていくという意味でとても価値があることだと思うので、私はこれが入ったことがまず今回の成果としてちゃんと認識するのも大事なのではと思いました。

(山岡会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(川村美智委員)

殿岡委員と似た意見ですが、横断的に検討しつつ、重なっているものは一つにして効率化を図るとか、そういった作業を市民自治推進課がやるかどうかは別として、必要だと思いました。また、地域総務課でやっている事業も、もちろん主体は市民自治推進課ではないけれども、様々な課で市民自治、市民活動と関わっているということを図式化できないかと思います。地域総務課と自治会・町内会の関わりや、また、教育委員会で総合教育会議をやっていて、様々な部局が入って話し合う時に、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援が足りないのではないかという議題の際は国際交流を担当する部局も協力して下さって、少し進みました。全ての部局で合同会議をすることは難しいですが、比較的近い分野は調整しているというか、実際、外国にルーツを持つ子どもの教育についても、ボランティアの方たちの貢献が大きい。また企業も関わってくださっています。一つの市民活動でいろいろなところで関わっていますので、市民自治推進課だけがやれることに注力しつつ、他のところと繋がるとか、そちらにお願いしてしまうこともあっていいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。どういう図になるのがよいか、お話を伺いながら考えていました。やはり「横断的な」というのは、今までどれぐらい出来ていたのか、委員の皆さんがどのように評価されているかわからないですけれども、これまで以上に必要だと思っています。イメージ図みたいのが

あると他の部署も自分たちの位置がわかりやすいと思います。関わり方も含めて、内部調整を進めていきたいなと思っています。ありがとうございます。

(山岡会長)

そろそろよろしいですかね。今後の流れはどうなりますか。

(事務局)

今いただいたご意見や市の方でやるべきこと、そういったものも踏まえて計画へ反映、修正いたします。その上で、市の内部において計画について審議する会議があります。それが2月の下旬にございますので、この会議にパブコメの結果、協議会での審議状況、ワークショップの結果等も含めて説明し、そこでまた意見を各部局からもらいます。2月中旬に最終的に計画策定に関して市として意思決定をするための会議が行われますので、そこで(案)がとれるという形になります。他の作業としては、パブコメの意見にもあったように、計画書にイラストを入れる等、印刷屋さん製本をお願いする予定になっていきますので、その段階で反映してまいります。

(山岡会長)

最終的に表に出るといふ計画が表に出るといふかのタイミングはいつでしょうか。

(事務局)

3月の下旬に市議会の方に報告をさせていただきますので、それ以降となります。

(山岡会長)

本日の議事は以上です。皆さんどうもありがとうございました。

会議録署名人

会 長